

山浦地区 健康長寿のふるさと 「いやされ・支え合う」 まちづくり計画 (地域計画更新)



山浦地区まちづくり推進協議会
(令和7年3月)

一 目 次 一

序章 まえがき

第1章 山浦の誕生と現状

1. 山浦誕生の経緯と小学校の歴史
2. 山浦位置と概況

第2章 地域計画更新に伴う杵築市と山浦の概要

1. 杵築市の人口推計と山浦
2. 地域計画更新のためのアンケート結果と分析

第3章 まちづくり推進協議会の基本方針・活動計画

1. 活動計画の目的
2. まちづくりの基本方針
3. 活動計画・方向性

第4章 まちづくり計画の実現を目指して

1. 実現に向けた行動指針

序章 まえがき

山浦地区は杵築市の北西に位置し、のどかな田園風景が広がる豊かな自然に囲まれた地域です。

昭和30年代には人口2、000人を超え、農業を中心に地域の人たちが日々の暮らしを営んでいました。高度経済成長期に入り若者たちが地元を離れ、ゆるやかに人口が減少することとなり、近年では急速に少子高齢化・過疎化が進み、家族や集落では解決できない様々な問題が生じてきました。

ある程度は予測されていたことではありましたが、これからの山浦地区を維持していくためには、新たな地域づくりへの転換が求められてきました。

このような地域の状況のなか、杵築市が提唱する「協働のまちづくり」の指針に則り住民・地域・行政がそれぞれに連携を取りながら、地域でできることは地域で考え実践する仕組みづくりを行うため、平成29年10月に山浦地区「まちづくり計画」を策定し7年が経過しました。この間社会情勢や地域の状況等が変化していることから見直しを行いました。見直しにあたり、地域住民の皆様の意見を反映するため、15歳以上の住民を対象に「まちづくり住民アンケート調査」や「対話」を重ねてきました。

これらの調査結果を分析し課題を洗い出し、活性化対策を検討し、地域計画の更新を行いました。

本計画に基づき、これからも安心・安全に暮らしていける、まちづくりを展開していきます。

令和7年3月
山浦地区まちづくり推進協議会
会 長 阿 部 信 秀

第1章 山浦の誕生と現状

1 山浦誕生の経緯と小学校の歴史

山浦地区の歴史は、明治5年の「山香郷各村の学区」によると、「速見郡第二大区」に属し、明治22年に「山浦村」「吉野渡村」が「山浦村」に統合され、昭和30年の「第二次町村合併」で「山香町」が誕生し、「山浦村」から「山浦」と呼ばれるようになったとされています。

山浦地区の北端には、杵築市の最高峰である「雲ヶ岳」（654メートル）がそびえ、山林が広がっています。

また、当地区は降雨量が少なく地形的に河川が短いために、水田農業を営むのに必要不可欠な水の確保が困難でした。先人たちは、多くのため池を造り、周辺のクヌギ林につないで、限られた水を有効に活用する農林水産循環システムを作り上げ、一部、現在の山蔵川の源流として継承をしています。

その山蔵川の川沿いの本篠河縁には、大分県指定有形文化財の板碑があります。

高さ2.6メートルの「建武板碑」が立ち、建武元年（1334年）の銘が刻まれています。

その南東にあつては、大村山（419メートル）がおだやかな山容を見せています。この付近一帯は、天文3年（1534年）、周防（山口県）から攻め入って来た大内軍と、これを迎え討った府内（大分市）の大友軍との間に激しい戦闘がくりひろがれた古戦場です。また、大村山には、この戦いで戦死した大友軍の大將吉弘氏直や、寒田親將三河守らの墓があります。

この近くにある、善神王社前には、大内軍の大將杉長門守の墓と伝えられる巨大な「はなぐり石」が立っています。更に、下山の杉の造林の中に、高さ約2メートルの角柱碑があり、貞治5年（1366年）の年号と「覚位覚阿為逆修」の文字が読み取れ、大分県指定有形文化財になっています。

この山あいから県道沿いに少し行くと、「楠ため池」が一望でき、周囲4km、面積68ha、貯水量約124km³を誇る杵築市最大のため池で、立石川流域の水田約68haに水を供給しています。

更に、県道沿いの長田バス停から南に約150メートル入ると「金亀山泉福寺跡」があります。ここには、由来ある古い寺で、境内に慶応3年（1351年）の銘が刻し立派な国東塔があります。大分県指定有形文化財でもあります。

その西の外れに国指定の重要有形民俗文化財として「石風呂」があります。その他、指定文化財も多く、杵築市の「散策マップ」や「健康ウォーキングマップ」にも掲載され、各所イベント等が開催されています。

そして、山浦小学校は、明治7年に山浦の「通正寺」仮校舎として学校を開設し、後明治31年山浦小学校改築校舎落成式を挙行し、昭和22年に山浦中学校も開校し小学校と中学校の一貫した学校となりました。

昭和29年には、山浦小学校器楽合奏が大分県最優秀として滝廉太郎記念音楽祭に参加しています。昭和34年に、山浦中学校が閉校され上中学校と北部中学校へ進む様になりました。

昭和44年には、町内初めてのプールが完成されました。

このような多くの歴史を持った山浦小学校も児童数の急激な減少により、平成28年3月を持ち143年の長い歴史の幕を閉じることとなりました。

こうした山浦地区の人口減少の要因は、若者の流出や産業の変化などさまざまな環境によるものです。

若者の流出により、児童・生徒数の減少、そして、高齢化率の上昇が進み、核家族化が進行し、その結果、これまでに行われてきた共同作業や地域活動、伝統行事の実施が困難になるなど集落機能の低下も進んできています。

このような状況のなか、地域が抱える共通の課題を解決するため、従来の集落の範囲を超えて、ともに助け合い、支え合う、一体的な地域づくりが必要となりつつあります。

2 山浦の位置と概況

山浦地区は、杵築市の北西に位置し、北部には「るるパーク（農業文化公園）」があり宇佐市安心院町に隣接し、信号機も無い小さな集落です。

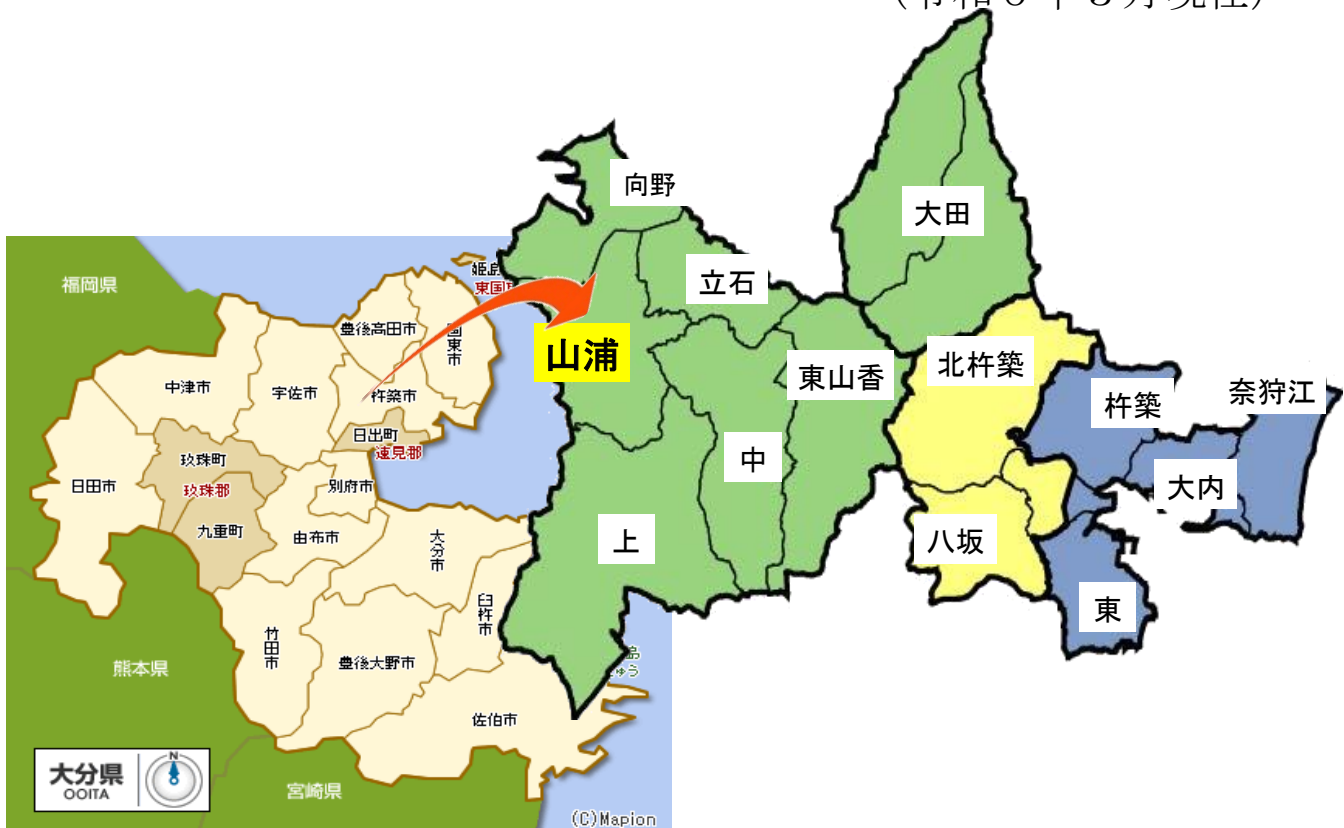
面積が約19.87km²の人口は、478人（男225人、女253人）で4つの集落（山浦北部・山浦西部・山浦南部・山浦東部）により形成されています。

（4つの集落前は、19地区の集落から形成されていました）

高齢者（65歳以上）が、274人（男117人・女157人）で約57%を占めています。

さらに、後期高齢者（75歳以上）は、157人（男57人・女100人）の約33%を占めている地区です。

（令和6年3月現在）



資料：杵築市市民課より

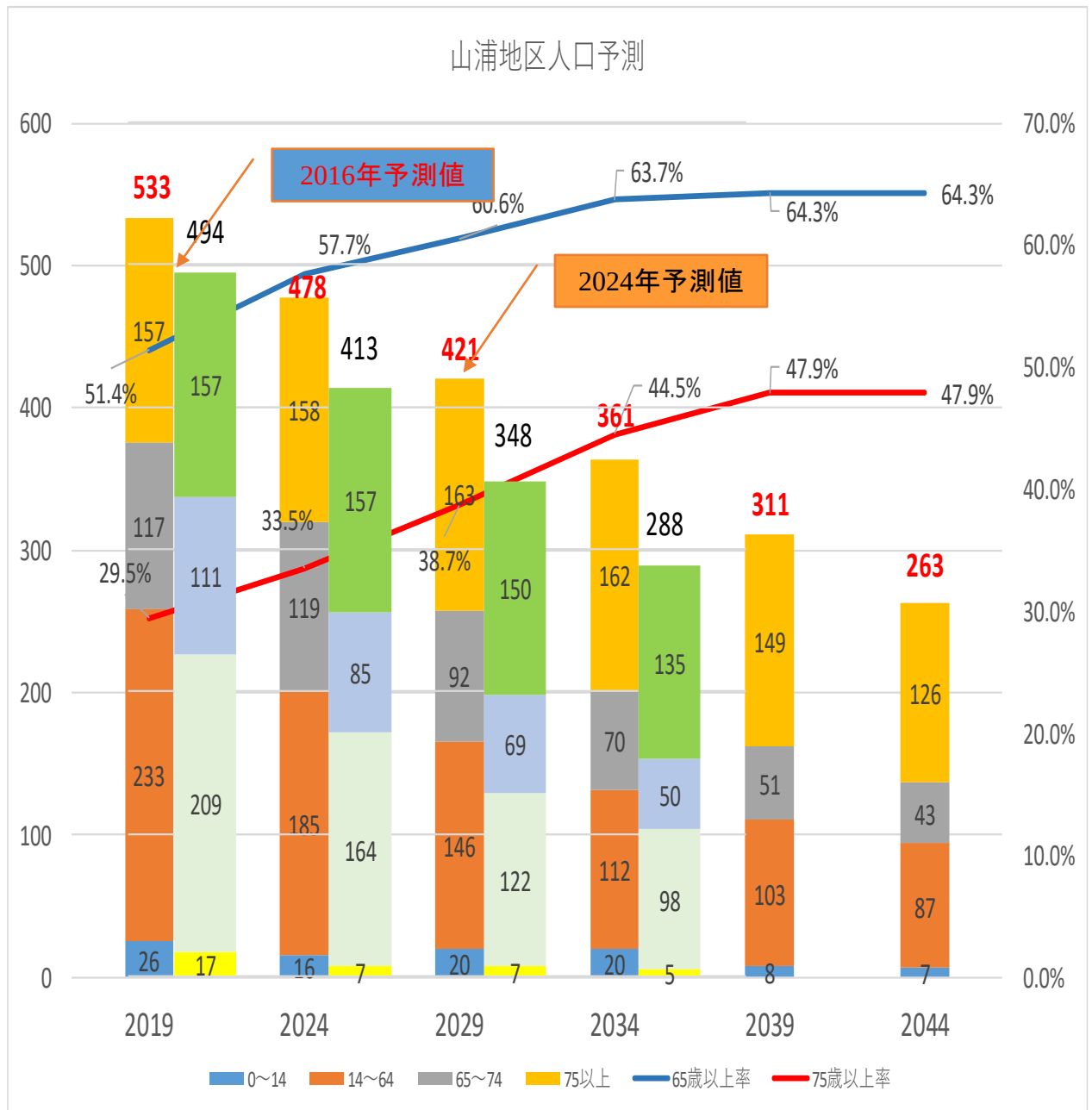
参考：山浦地区班別高齢化率調査

令和6年3月 現在

行政区	地区	総人口			65歳以上人口				75歳以上人口			
		男	女	計	男	女	計	割合	男	女	計	割合
山浦北部	芋恵良	1	4	5	0	4	4	80.0%	0	4	4	80.0%
	定野尾	20	18	38	9	12	21	55.3%	7	8	15	39.5%
	原	13	17	30	7	7	14	46.7%	2	5	7	23.3%
	西谷	6	7	13	4	6	10	76.9%	4	5	9	69.2%
	飛松	19	21	40	6	11	17	42.5%	1	5	6	15.0%
	浦篠	16	23	39	9	13	22	56.4%	3	8	11	28.2%
山浦西部	谷	12	11	23	4	7	11	47.8%	2	4	6	26.1%
	本篠	7	11	18	5	9	14	77.8%	3	6	9	50.0%
	川床	8	8	16	5	6	11	68.8%	1	3	4	25.0%
山浦西部	勢場	14	10	24	10	6	16	66.7%	3	4	7	29.2%
	下山	10	10	20	7	9	16	80.0%	5	6	11	55.0%
	石河野	10	21	31	6	13	19	61.3%	1	9	10	32.3%
山浦東部	出河内	20	16	36	7	5	12	33.3%	6	3	9	25.0%
	長田	17	19	36	9	11	20	55.6%	4	6	10	27.8%
	那留	10	16	26	4	12	16	61.5%	2	9	11	42.3%
	楠原	11	10	21	7	8	15	71.4%	2	4	6	28.6%
	吉野渡	19	19	38	12	14	26	68.4%	7	8	15	39.5%
	速内	7	8	15	1	2	3	20.0%	1	2	3	20.0%
	荒平	5	4	9	5	2	7	77.8%	3	1	4	44.4%
合 計		225	253	478	117	157	274	57.3%	57	100	157	32.8%

資料提供：杵築市より

参考：今後の山浦地区人口の推移予測



2016年時の予測からみますと、やや緩やかな減少となっていますが、確実に人口減少や少子高齢化の歯止めはかかりません。今後、約20年後には、300人を割ってしまうと同時に後期高齢者(75歳以上)が約48%になる予測です。人口流出や社会情勢が大きく変化するなか、移住者促進事業と受入れ体制の整備が不可欠となっています。

第2章 地域計画更新に伴う杵築市と山浦の概要

1 杵築市の人口推計と山浦

杵築市の「保健医療福祉総合計画2024」による杵築市の人口推計によりますと、下記のように推測されます。

2025年には、25,198人

2030年には、23,291人

2035年には、21,496人

2040年には、19,961人と推計されています。

このような人口減少は、経済活動の停滞や住民生活に大変な不便をもたらす可能性があります。同山浦地区も同様にこれ以上に不便をもたらしてきます。

これまで地域を支えてこられた方々が高齢者となり、地域の担い手は減少し続けています。これからも地域が続いていくためにはU I Jターンを含め今の世代に続く次世代の定住が一層重要と考えています。

そこで、次世代の定住条件づくりも視野に入れながら、地域づくりを進めていくために、山浦地区地域計画を更新策定することになりました。

今回のアンケート調査は、多くの皆様の山浦地区に対する思いから地域の良さと課題などを改めて探るためのものです。

本調査は、山浦地区に住民票をお持ちで、令和6年4月1日現在の満15歳以上人口の全員人口を対象に、区長、班長を通じて行いました。

このふり返りのアンケート調査にご理解・ご協力いただき感謝申し上げますと同時に、これからも、山浦地区の振興発展のためにご理解・ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和6年12月

山浦地区まちづくり推進協議会
会長 阿部 信秀

1 地域計画更新のためのアンケート結果と分析

【1】アンケートの概要

期 間 : 9月30日配布、10月18日締め切り
対 象 : 山浦地区住民で15歳以上(452名/468名)
回 収 : 用紙 234票 インターネット30票(264票)
回答率 : 58,4%

【2】回答状況(前回との比較)

	2017年			2024年		
	全体	回答	率	全体	回答	率
山浦地区	580	430	74,1%	452	264	58.4%
男性	257	193	75.1%	245	117	47.8%
女性	323	223	69.0%	207	128	61.8%

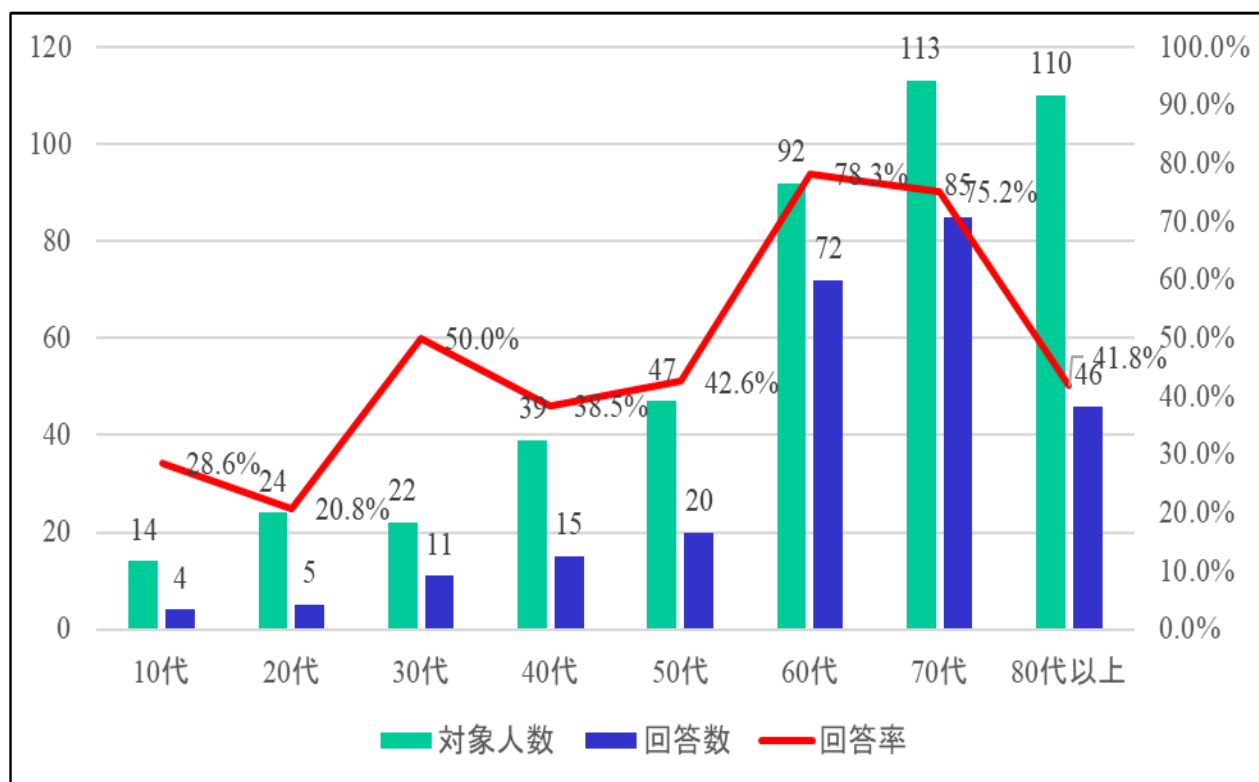
●回答率を前回と比較してみると、約15,7%減っています。
女性が約7%に対し、男性は約27%も減っています。

【3】地区別回答状況

	山浦東部	山浦西部	山浦南部	山浦北部
対象人数	170	53	72	157
回答数	112	32	32	75
比率	65,9%	60,4%	44,4%	47,8%

●各地区の回答率を見ると、東部地区が約66%と高く、続いて西部地区の60%、南部地区、北部地区では50%を割っている結果でした。

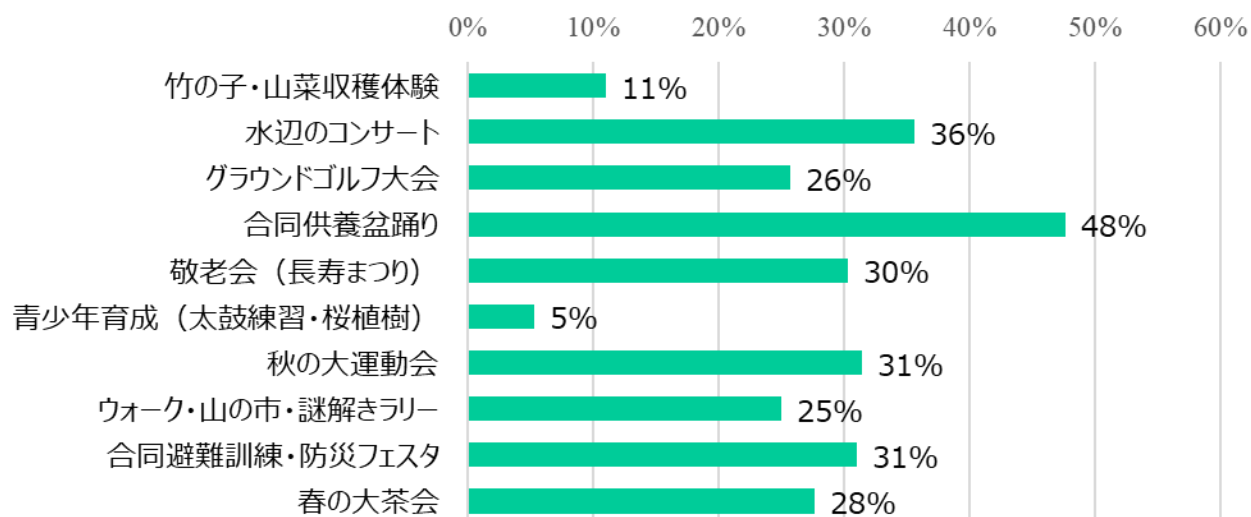
【4】年代別回答状況



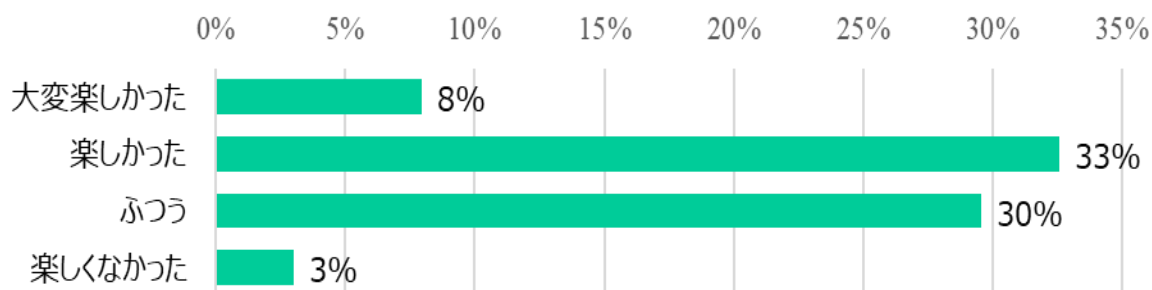
	20歳以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代
対象	38	22	39	47	92	113	110
回答	9	11	15	20	72	85	46
率	24%	50%	39%	43%	78%	75%	42%

- 各年代別の回答状況を見てみると、60代・70代が約78%近く関心度が高いことが見られます。また、50代以下の若い年代の回答や意見が少ないことが気になります。

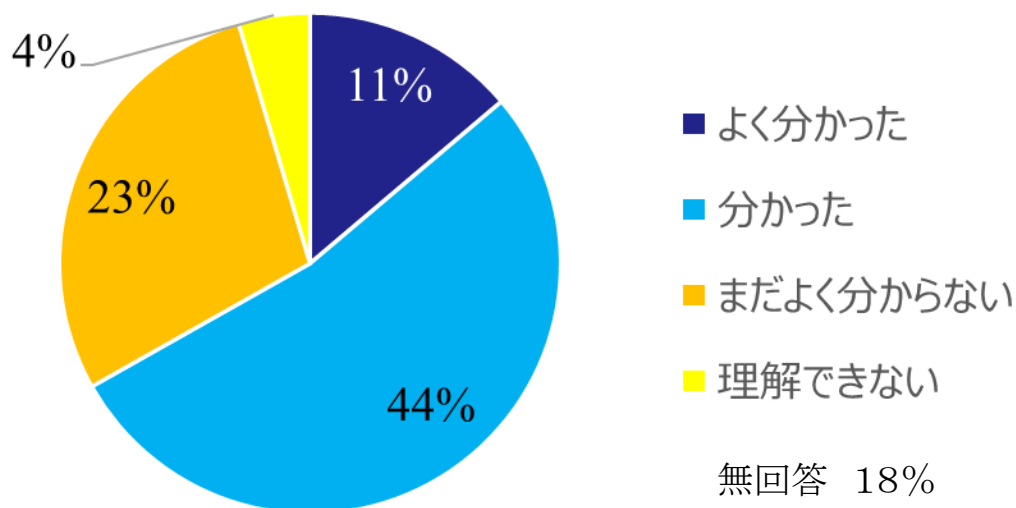
【５】協議会活動やイベント参加状況



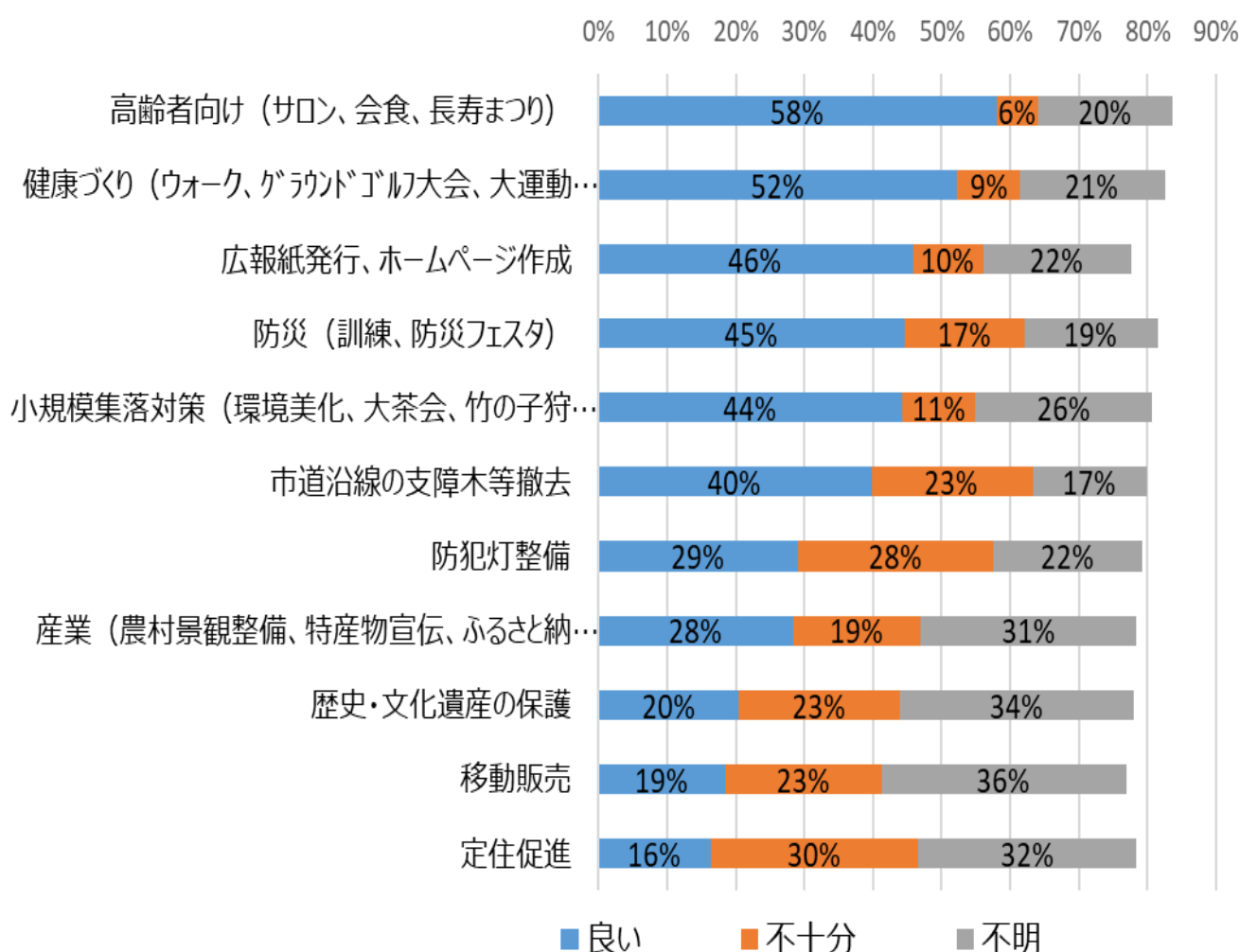
【６】協議会活動やイベントの満足度



【７】協議会活動の認識状況



【8】協議会活動について評価

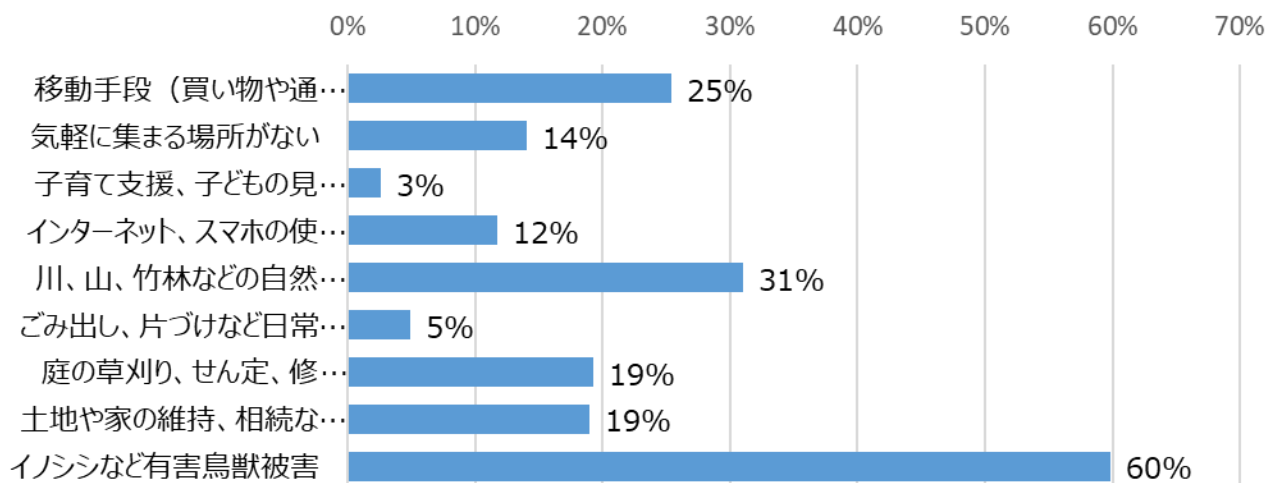


●各イベント活動の評価はおおむね良い傾向にあるが、定住促進、移動販売、歴史・文化遺産保護などにおいては不十分、不明との評価を得ています。

産業においては数年前から手掛けているものの認知度が弱いものと推測します。

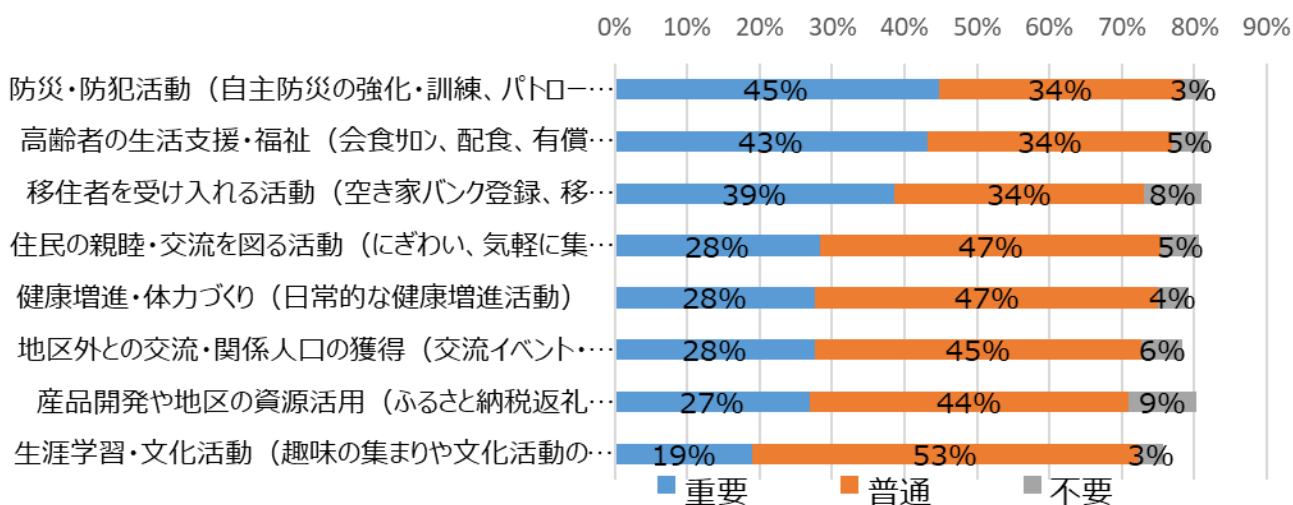
歴史、文化遺産、移動販売・定住促進は、協議会としても取り組みが出来ていないのが実情なので、今後の課題として受け止めて行きたいと思います。

【9】生活をする上での困りこと



●イノシシやシカなど有害鳥獣被害が断トツに多いことが分かります。協議会でも把握し、令和6年より話し合いを重ね狩猟免許取得を促し、9名の方々が受験をしています。各地域で捕獲や駆除に寄与するものと思います。生活面では、移動手段や庭の草刈りなどが困難になりつつあります。

【10】これからの活動に期待すること



●防災・防犯の取組みや生活支援・福祉への期待度が高い。続いて移住者の受入れや各種イベント企画に期待していることが伺えます。

【1 1】アンケートその他欄や意見のまとめ

Q 2：協議会が行うイベント等について

- イベントの内容自体は概ね好評で、地域交流の機会として意義があると評価されている。
- イベント参加率向上や準備作業の軽減を望む声がある。
- 具体的な改善点としては、ウォークコースの変更、駐車場の整備、SNSなどによる広報強化、世代間や地域住民参加の促進などが挙げられています。
- 一方で、イベント開催そのものの継続と、主催者・スタッフへの感謝の声もあります。

以上の傾向から、イベント内容自体は評価されている一方で、参加率向上と準備作業軽減を図る改善が求められています。
また、参加率アップと労力軽減の両立が今後の課題だと考えられます。

Q 4：協議会からのお知らせについて

- 広報紙や回覧板（チラシ）など十分届いていることが評価され継続を期待する意見が多い一方で、SNSによる発信(LINE)、配信を希望する意見もあります。
- 情報の速報性について期待する意見もあります。

Q 6：生活の困りごとについて

- 地域の担い手が固定化されている点、有害鳥獣被害(イノシシの他猫など)、工作放棄地の拡大の指摘が多くあります。
- 夜間の暗さ(外灯)を指摘する意見もあります。
- 今は困っていないが、将来を不安視する意見もみられます。

人口減少と高齢化に伴う地域づくりの負担増、自然環境や生態系の変化(蛍の減少)、日常生活に便宜性向上が課題となっています。

Q 7 : 今後の活動の期待について

- 地域の安全に関する問題が懸念されています。
(鳥獣被害、防犯のほか、交通安全としての草刈りなど道路の保全)
- コミュニティ活動への参加、行事等の開催を期待されています。
(地域の行事、趣味や講座の開催)

こうした活動について、現在のイベントや活動の継続とともに、役員等活動メンバーに期待する意見がみられます。

Q 8 : 区長や協議会メンバー等を 引き受けたくない理由について

- 年齢や身体の不調
多くの住民が高齢や身体的な理由で町内会の活動に参加できない。
- 仕事や家庭状況
夜間仕事をしている。家族の介護をしているなど、個人的な事情や家庭の状況から参加できない。
- 社交性
“人付き合いが苦手”などの意見があり参加できない。

一方で、現在は無理ですが将来的に参加を考えているなど、将来的に可能性を示唆する意見もあります。

Q 10 : 暮らしにくいと感じることについて

- インフラの問題
ネット環境の不十分さ、移動手段の必要性や不便さ、買い物や通院等へのアクセス困難、スーパーや学校が近くになく、道路の状態の悪さなどが指摘されています。
- 自然環境とその問題
動物の被害（イノシシ等）、道路の支障木の問題があります。
- 高齢化と人口減
高齢者の生活難易度や人口減による人間関係の希薄化、空き家や荒れた農地等の問題、若者の不在が指摘されています。

●地元の活動

人口が少ないのに行事が多く、関わるのが大変である。

全般的にネガティブな意見として、生活がしずらい、物価が高い、個人攻撃が多い、衛生状況の悪さなど地域での生活の難しさを指摘する意見も見受けられます。

地元への満足感を述べる声や地域の人々と友好的に交流している人々もいます。健康関係のサービスに対する感謝の声もあります。

その他自由意見の内容

1 地区のイベント評価

- ・地区が主催するイベントや行事は、一般的に良い評価を受けていますが、景品や内容の更新を求める声もあります。

2 高齢化に伴う不安

- ・高齢者の増加とともに、今後の生活や地区の持続性への不安が表明されています。

3 現状の維持

- ・現在のコミュニケーションチャンネルや行事に満足している人もいる一方で、一部の人々は行事への参加機会や環境に困難を感じています。

第3章 まちづくり推進協議会の基本方針・活動計画

1 活動計画の目的

人口減少により、集落機能を維持することが困難になっている山浦地区において、全ての地域住民が参加する山浦地区まちづくり推進協議会が主体となり、杵築市、各種団体との、協力役割分担を明確にしながら、各種生活機能を集約し、地域資源を活用し、仕事・収入を確保するなど地域課題の解決に向けた取組みを持続的に行うことで、住み慣れた山浦地区で安心して暮らし続ける環境を確保します。

2 まちづくりの基本方針

(1) 地域計画を定期的に策定する地域

地域計画の更新で、令和6年10月に15歳以上の住民を対象として実施した住民アンケートの結果を基に、地域の状況を数値で把握し、将来人口・高齢化率など認識したうえで、地域が持続していくための対策のひとつとして、移住定住者を増やす取組みを強化し、将来の地域活動のシュミレーションなどを行います。また、アンケートから見いだした論点から若者を中心としたワークショップなどを開催し、地域性を再認識し、地域の良さや課題を探り、今後の地域の在り方について、地域の将来ビジョンを盛り込み、「地域計画更新」の策定や組織体制を見直します。

(2) 高齢者が元気で支え合う地域

高齢者サロンやデイサービスを推奨し、一人暮らしや高齢者のみ世帯の多くの方々に利用を促します。背景としては、高齢者になると家に引きこもりがちになり、地域で孤立してしまう恐れがあります。それを防ぐためには、サロンのような「通いの場」を確保して、楽しみ、生きがいを見出し、社会参加のきっかけにします。

また、グラウンドゴルフや、老人クラブ活動などに継続的に加入を促し、仲間同士でお互いのことを気にかけて合うことで見守りを行います。

(3) 活力が生まれる地域

有償ボランティアの多種さまざまな事業主体と協力し、草刈り、買い物、掃除、ゴミ出しなどの生活支援、サロンと組み合わせた助け合い・支え合いの提供体制を確立し、一人ひとりの元気を地域の元気にする体制を構築します。将来的には、ITを使った情報収集や送受信ができる機能を各戸別にもたせて、困りごと、緊急時や、防災など見守りが出来る仕組み創りを検討します。

さらに、一般社団法人「野草の里やまうら」の立上げを基に地域資源等活用し、野草を中心とした商品開発から販売までを確立しています。ここを拠点とし、新たに食堂・カフェやよもぎ蒸しなどを計画して地域外の集約を図ります。

組織運営と事業の安定化とともに、地域経済循環を促すための計画策定を行います。売上の一部をまちづくり推進協議会の活動資金に結び付けられるよう進めて行きます。

(4) 安心・安全な暮らしができる地域

地域での緊急時に対応するため、防災訓練・教育を強化し、地域の特性に応じた備えを進めます。

定期的な、防災・避難訓練を実施し、防災意識の普及・促進を図ります。また、近年「各種の請求、還付金や警察官になりすました詐欺」など多くの事件が発生しています。

そこで、警察などの関係機関と協力・連携した情報共有を図り、地域に対して防犯に関する情報提供など進めていきます。

(5) 計画期間

5年間（令和7年度から令和11年度まで）

3 活動計画・方向性

1 福祉・防災部会

1) 福祉・防災部活動の目的

- ・住民が心豊に暮らせ続ける地域となるように、健康長寿で近隣と交流や支え合う気持ちで生活ができる環境を推進します。
- ・日頃から防災について十分な意識と一定の知識・技能を持ち地域で防災・避難訓練を行い、いざというときに協力し対応ができる体制づくりを行います。

2) 活動目標

(1) 社会参加活動の推進

- ①地域で活動している事業・行事への参加を促し、健康維持増進に努めます。生涯学習の一つの「健康教室」への参加を多くの高齢者へ呼び掛け、週1回の通いの場として定着を図ります。
(サロン参加者の掌握をする)
- ②地域をあげて予防に重点を置いた健康づくりを推進します。
 - ア) 減塩対策事業として、住民への講話・塩ジョイメニューなど、家庭向けレシピへと参考にしてもらう。
 - イ) 口腔機能の維持・向上を住民へ周知する。
 - ウ) 定期的な筋力トレーニングで、足腰の筋肉に刺激を与える。
- ③防災・避難訓練などに参加を促し、自助努力が出来る知識を学習してもらい、自主防災組織等を充実させて、住民ひとり一人の防災意識を高揚します。

(2) 地域の後期高齢者・要支援者など把握

- ①各地域にどのような後期高齢者・要支援者がいるのか把握するため、定期的な訪問をし情報収集します。
- ②訪問後、見守りネットワークを創り、地域の民生委員と情報を共有し、防災・避難情報としても活用します。

3) 取組計画

- (1) 後期高齢者を対象とした「山浦よいとこ長寿まつり」を通年事業とします。
- (2) ひとり暮らし宅へ「友愛活動(見守り訪問)」を行い、民生委員と情報共有します。
- (3) 生涯学習の活動で「健康教室」の参加者を募り多くの方が健康維持できるよう継続します。
- (4) 山浦地区合同の防災訓練「防災・避難・消化訓練」など毎年開催します。
- (5) 地域防災力の強化に向けた取組みをします。

補足：各区長と協力して「防災・危険個所」などを再確認します。(各地区の危険個所マップなどから)
また、避難所の環境整備や避難所までの経路を再確認し、自助、共助に向けた防災学習や要避難者及び協力員を明確にして山浦地区総合の防災組織になるよう計画的に活動とします。

2 地域間交流・社会教育部会

1) 地域間交流・社会教育部の取り組み目的

- ・山浦地区住民が主体となって、地域内外との交流を図るイベントを企画し、急激な人口減少・高齢化が進むなか、地域に元気と活力を高めます。
- ・豊かな人生を送ることが出来るよう、高齢者の生きがいづくりや子どもの健全育成をはじめ、地域住民が知識を習得をし、若い世代の力やアイデアなど協働した学習を行います。

2) 活動目標

(1) 定期・新規イベントを協働して開催

- ①地域で実施している事業・行事への参加を地区外への呼び掛けをなど幅広く促し、健康維持推進に努め、参加者同士の親睦を深めます。
- ②各部会が開催するイベントを共同で進め、グラウンドゴルフ大会など、地域の自主的な取組みを通じて地域内外と交流を図ります。

3) 取組計画

- (1) 多世代(青少年から中高年)が一丸となって、今までの行事活動の見直しや運営のやり方を協議し、担い手の育成等ができるよう継続します。
- (2) 定住者促進や移住者の受入れ体制を構築し空き家住宅の確保を推進コーディネーターを専任して対応します。

3 地域産業部会

1) 地域産業部の取り組み目的

- ・地域外から「人」を呼び込むための体制を構築します。
- ・後継者不足や圃場環境の悪条件から、農地の荒廃や未利用用地が急増し、集落の存続に大きな影響が生じている。これらを解消するため、「個人完結の農業」から脱却し、山浦地区全体で農地の荒廃防止や利活用を検討します。
- ・有害鳥獣被害が年々多くなり、対策に地域が一体となり猪や鹿等の狩猟を猟友会との協働で対応を図ります。

2) 活動目標

(1) 定期・新規イベントを協働して開催

- ①多世代交流拠点として、「カフェ・よもぎ蒸し」など新規事業にも参入して、多様性の生活環境を構築して地域外の人を呼び込みます。
- ②農業研修生や体験希望者など非農家も含めた地域内外の人材を受入れることにより、後継者の育成につなげます。

(2) 農地保全や地域資源を利活用

- ①地域で活動している事業「一社 野草の里やまうら」で野草ビジネスを推進し、野草栽培から加工拠点の創出、販売体制を支援します。地域の資源を利活用したコミュニティビジネスを振興し、経済循環を促す体制を構築します。
- ②山浦の特産物として「米」の取り扱いを強化し、各イベントで使用してもらおう。また、レンゲ草播種による地力強化からブランド化を図ります。
(山浦の写真など掲載し地域の特色を出す)
- ③地域の若手を中心にした狩猟免許の取得を促し、効率的な駆除の仕方などを指導できる体制を構築します。

3) 取組計画

- (1) 「(一社)野草の里やまうら」を活用し山浦特産品発掘や事業支援をします。
- (2) 春の大茶会や竹の子狩り&山菜収穫体験並びにやまの市即売会に向けた推進をします。
- (3) 鳥獣被害対策の取組みに、多面的機能推進事業を活用し若手への狩猟免許取得を促し、猟友会と協力して被害減少に取り組みます。
- (4) お米の減農薬栽培や休耕田の景観整備を推進します。
(農地へのレンゲ草播種推奨など)
- (5) 県外など農業体験学習や農業研修の受入れ体制を学習し計画的に仕組みを構築します。

第4章 まちづくり計画の実現を目指して

地域住民の意見が集約された「山浦地区まちづくり計画」を更新し実現していくためには、まちづくりの方向性を共有するとともに、みんなで話し合い、決定できる仕組みに取り組んで行きたいと考えています。

そこで、下記の4つを指針を基に目指します。

(1) 住民主体のまちづくりを行います

この計画書は、私たちが暮らす山浦地区を、よりよい地域にすることを目指して策定したものです。住民や地域と行政との連携を取ることが重要です。

そのためには、住民自らが考え行動をしようとする意識と既存の事業活動をみんなで共有化し、無理をせずに展開しながら活動の輪を広げて、輝く地域にします。

(2) 協働のまちづくりを行います

まちづくりの主人公は地域住民であります。住民ができることは自主的に取り組みながら、行政ができることは行政が役割を担うことが大切です。

役割分担を明確にしながら、互いを尊重し、連携して活動を進めて行く協働のまちづくりを進めます。

(3) 具体的な実施計画書を作成します

本計画書では、基本方針に沿って活動内容を定めています。

この活動内容を具体的な活動に繋げていくためには、実施年度毎に具体的な実施計画を作成します。多くの意見を反映させるために、まずは専門部会で実施計画を協議し、最終的には役員会で総合調整を行い、住民総会で事業や予算を決定する仕組みを確立させます。

(4) 事業計画の進捗管理体制を確立します

この計画は、5年の期間に及ぶものであり、多くの地域住民が参画し、計画の実現に向けて進められるべきものです。

よって、今後は、計画（P）・実施（D）・点検（C）・改善（A）と計画実現のサイクルを導入し、計画や結果及び事業の進捗などを反映させるように、参加者へ行事の精査（アンケート調査）を行います。

住民が住み慣れた地域で暮らし続けられることができるような、地域づくりを目指し進めていきます。